

## 中国派遣留学 体験談

国際学部 国際文化学科

21015038 五井 晃

忘れられない日がある。2016年12月18日、日曜日。その日は「北京の夜」だった。

北京の夜と言われても、クエスチョンマークが頭に浮かび、その次の言葉を待つしかなかった。どうやら、「北京の夜」とは北京師範大学の留学生による文化祭のようなものらしい。

「あー祭りね。おれ好きなやつじゃん」そう思った瞬間、僕は鳥肌が立った。

「え。みんなで踊るの…？……………最高じゃん！！！」

僕は踊ることが好きで、しかもぼんやりと世界中の人と踊ったり歌ったりしたいなど、夢とも目標とも言えない段階だか、ただやりたいなと思っていたのだ。

「おれ絶対コレやります(おれのためにあるんですかね?)」と近くの先輩に言った。

そして、僕らの「北京の夜」が始まった。

本番までの過程は、字数制限の都合上、カットします。

知りたい方いましたら、メール下さい。(笑)

さあ本番。いろいろあったけど、そこはカット。

いきなりだが、この日僕は、今まで生きてきた中で一番泣いたし、一番悔しかったし、一番嬉しかったし、一番幸せだった。まあ多少は盛らせてください。

こんなにいろんな感情がいつべんに溢れてきたのは初めて、これはほんと。

何が言いたいのかと言うと、まあ言いにくいのだが僕は本番、失敗したのだ。

先輩たちが任せてくれたバシッ！っとキメる背中を駆け上がって跳ぶシーンで、コケたのだ。

その後のことは、覚えていないとよくあるが、僕は覚えている。けっこう鮮明に。

涙で前が見えなくなった。

でも、踊り続けた。

これ以上ないほど声も出した。

まわりを見る余裕はなく、でもみんなとここまで作ってきたモノをそこで出し切りたくて、必死に祈った。踊りが終わる最後の瞬間まで。

「いまおれはすげー楽しい。人生で一番かもしれない。留学きてよかったな。ありがとう。」

拍手の中、袖にはけると、僕はもう泣きじゃくっていた。ごめんなざいと言いながら。みんなは「大成功だっただろ！良かったじゃん！」と声をかけてくれた。でも僕は悔しかった。

少し経って、ようやく涙も枯れてきたかと思ってたら、大好きな先輩たちにハグされた。

「お前と踊れて良かったよ。」「お前ほんとカッコいいな。」「お前に任せて良かったわ」どれも心から嬉しかった。

そして、「頑張ってきた過程が大事なんだよ」

その人は僕が‘‘あの時’' 背中をかりた人で、一番カッコいい先輩。

その人は僕にハグしたその時だけ、僕の背中だけで、泣いていた。

この時が一番幸せ。幸せであってるのかわからないけど、こんな人たちと同じ時を過ごせて良かったなって、そういう意味で幸せ。

正直、1000字程度で体験談を書くのは嫌だった。おれの文章力じゃ伝えきれないから。

でも、読んでくれた方の誰かひとりでも、何かしらの感情が生まれてくれたら、春休み返上で書いてみた意味がある。

ぜひ、留学に行って、いろんなことを経験してみてください。

留学に行かせてくれてありがとう、お母さん。